

阪神淡路大震災で蔵が倒壊した酒造会社の看板や
吉野にある日本最古のすし屋の絵葉書などを展示第16回 博物館実習生による企画展示「看板 —これどんな店?—」
~2月10日(土)まで開催中

帝塚山大学附属博物館(館長:清水昭博 奈良市帝塚山7-1-1)は、2月10日(土)まで、第16回博物館実習生による企画展示「看板 —これどんな店?—」を開催しています。附属博物館を設置する本学は、学芸員資格取得に必須の「博物館実習」を大学所蔵の本物の史料に触れながら学内で行うことができます。博物館実習生による企画展示は、その学びの集大成として、文学部の学生が企画、立案し毎年1月に一般に向けて開催するものです。

今年の展示テーマは昔の看板。明治末期から昭和中期にかけて使用されていた酒屋や呉服屋、薬売り、すし屋などの看板8点と関連資料を展示し、それらから読み取れる商業文化について紹介します。

展示品のひとつ(写真1)は、創業明治25年(1892年)の酒造会社「菊千歳酒造」(神戸市東灘区魚崎)のもの。同酒造は阪神淡路大震災により仕込み蔵が全壊した後、酒造りを再開しておらず、批評家の小林秀雄が愛したとされる銘酒「菊千歳」も今は飲むことはできません。また、洋装の女性が中央に大きく配置された呉服店の看板(写真2)は、その女性のモデルが誰であるか長らく不明でしたが、学生の調査で大正天皇の皇后「貞明皇后(1884年~1951年)」の可能性があることがわかりました。このように出所や背景が明らかになったものがある一方で、「はらいたのくすり 熊膽木香丸」(写真3)のように薬屋の看板として多く出回っていたにもかかわらず、来歴が謎なものもあります。

今年本展示を企画した学生によるギャラリートーク(展示解説)も4年ぶりに実施。看板から伺い知ることができる時代背景や、工夫された広告表現なども、学生の解説とともに楽しみいただければと思います。



【写真1】菊千歳酒造(株)の看板



【写真2】小澤呉服店の看板



【写真3】はらいたのくすりの看板

第16回博物館実習生による企画展示 「看板 —これどんな店?—」

【展示/開催期間】 ~2月10日(土) 午前9時30分~午後4時30分

【休館日】 日曜・祝日、1/12(金)、1/13(土)、1/20(金)

【入館料】 無料 ※開館日時に変更等が生じる場合には、HPで随時ご案内します。

【帝塚山大学附属博物館】 TEL:0742-48-9700 FAX:0742-48-8783

E-mail: arch@tezukayama-u.ac.jp URL: https://www.tezukayama-u.ac.jp/museum

【学生によるギャラリートーク(展示解説)】
博物館実習の学生が展示解説を行います。

日時:2024年 1月19日(金) 13:30-14:00

1月27日(土) 15:45-16:15

【関連講座】

<第508回市民大学講座>

日時:2024年1月27日(土) 14:00-15:30

講師:河口充勇 教授(帝塚山大学文学部日本文化学科)

演題:奈良酒ルネサンス

—異業種間協力ネットワークに着目して—

貴社メディアにおかれましても、取材ならびに報道のご協力をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、実習生の学生への取材をご希望の場合は、事前にご連絡ください。

取材および
内容に関する
お問い合わせ帝塚山大学 入試広報課(担当:鈴木) 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1
Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp